

【校長室便り】No.35

H30年12月3日(月) 土佐町小中学校 谷内宣夫

学校は何のためにあるのか？



11月26日から 田井会場(あこ)・相川会場・石原会場にて、

「教育懇談会」が開催されています。その中で「学校は何のためにあるのか？」ということについて参加者の方々が考え、意見を発表しました。皆さんは、「学校？」て、考えたことがありますか？

こういう機会はあまりないと思いますので

考えてみてください。



以下は、その会で出された意見を紹介します。

◎「人を育てる場」「自立した人間を育てる場」

- ・自己指導力(自分のことは自分で解決できる力)
- ・自己発見・自己実現する(基礎を学ぶ)場
- ・自信とやる気をトレーニングしチャレンジ精神を身につける。
- ・自分でできる事はやり、できないことはできる人に頼めるようになる力を育成。 ・体力をつける場



◎「社会に出て通用する力を育てる場」

(スキルやノウハウを学ぶ場) ※学校は小さな社会である。

※人間は一人では生きていけない。必ず他者との人間関係・接点

(協力・依頼・共助・役割分担・感謝・加護・親切・尊敬・信頼・承認・協働 等)を持つ必要がある。一人ぼっちにならない

- ・知識・知恵・応用力(自分の可能性を広げるもの・スキル)
- ・社会常識・集団のルール(世の中のしきたりを知る)
- ・人間関係(世の中にはいろんな考えの人がいる。自分と同じ考えの人ばかりではない。そういう違った考えの人たちと一緒に仕事や集団生活するときに必要なものを学ぶ)
- ・コミュニケーション力(双方向に伝え共有できる力で毎日をより良く過ごす上で最も基本となるもので、文字、言葉、ジェスチャー、表情、等で互いの意思や感情、思考を伝え合うことができる力)
- ・周りの人々との協力・協働の仕方
- ・仲間の作り方・出会い(友達に会いに行ける場)
- ・先輩、後輩、同僚として、それぞれの役割を体験する。



◎学び合いの場(先生の学びの場でもある)

- ・一人で学ぶことより、仲間と共に学ぶ方がより効率的に、より多くのことを学べる。自分の中になかった考えを仲間から学び取ることができ、思考の幅や深さが増す。

◎安心して安全な場所(保護者が安心して子どもを預けることができる)・学校の基本です。みんなが安心して意見を言えたり、失敗しても明るく許してくれる仲間がいる。頼れる先生や支援員、同級生や上級生、下級生がいて互いに存在を大切に思ってくれる場所。

◎先生方の職場

- ・教員は公務員でサービス業であるが、現状は過労死してもおかしくない勤務実態。働き方改革が必要。
- ・先生方が働きやすい環境を整える必要がある。
- ・保護者対応・生徒指導等、教科指導や学級経営以外の職務が多い。本来の業務に集中できる環境づくりが必要。
- ・学校を取り巻く地域や保護者、行政の協力しようとする意識と協力体制の整備が必要。



◎学校は、楽しくないところ・楽しいところ

- ・学校ではやりたくない勉強や係活動などにも取り組む。楽しいと思わないこともある。我慢もしなければならない。
- ・社会でも同じ。楽しいことがある。でも、自分の思うようにいかないことの方が多い。全てが自分に都合よくはならないという現実を知るところ。だからどう解決していくのか考えて実行できる力を身につけていくことが必要。自分の心の折り合いをつける(コントロール)トレーニングの場

◎社会の良い面だけでなく、悪い面、醜い面を知る場

世の中に出たら、良いことばかりではない、いっぱい悪いことも醜いこともあることが分かる。その時に正しい道を歩めるようになってほしい。



◎地域を知る場(ふるさと土佐町)

◎保護者同士の社交の場

ほかにもいろんなご意見が出されていました。まとめたので発言者の意図と書いたことのニュアンスと違っていることもあると思います。どんな学校なら良くて、自分たちに何ができるのか具体的な策(案)を次回以降に話し合う予定です。

